

特別活動研究会 会報8号

KAWASAKI 特活

学級活動 (1) (2) (3) 児童会活動 クラブ活動 学校行事

川崎市立小学校 特別活動研究会

検索



令和5年度 小教研授業研究会 特別活動・養護
令和5年10月18日(水) 川崎市立川崎小学校



4年 組

学級活動(2) 「自分の生活見直し隊! ~よいすいみん~」

(ウ 心身ともに安全で健康な生活態度の形成)

ねらい

自分の現在の睡眠の状態について気づき、睡眠の量や質を改善するために話し合っ
て自分のめあてをも
って実践できるようにする。

<研究協議より>

- 睡眠の量より質に特化して改善するために話し合っていた。養護教諭の話
を聞く子供の姿や表情から、専門家の意見を聞くことのメリットを感じた。
- 事前の準備や資料について
→資料を見て二人で選んでいった。最初はブルーライトについての予定だったが、睡眠はブルーライトだけではないので「運動」や「朝日を浴びる」などを付け足した。体内時計のリセット方法や自律神経の働きなど、話したいことはたくさんあったが、盛りだくさんになってしまうので削っていった。
- 担任と子供と養護教諭のスムーズなやりとりの中から、ポイントを引き出していった。「朝日を浴びる」という資料は子供の考えからはなかなか出にくかったが、養護教諭の専門的な知識を付け足していくことに価値があった。
- オクリンクを使って他の児童の意見を参考にしながらめあてを立てることができていた。
- 児童の心を揺さぶる導入をしたい。アンケートの選び方や出し方、担任が子供たちの心をつかんだところで養護教諭の専門的な話を聞かせたい。

<指導講評：教育委員会 健康教育課 築部めぐみ指導主事>

- 時にはネガティブなことを言わなければならない健康教育だからこそ、伝え合う雰囲気や安心できる空間が大切。
- 日本人は睡眠時間が短い。食事と運動に目を向けても、睡眠に目を向ける機会は少ない。
- 友だちの考えを聞くことで考えが深まる。それが特別活動の良いところ。

<指導講評：カリキュラムセンター 下村智英指導主事>

- アンケートの活用
 - 学級の共通の問題として捉えるアンケート結果の出し方。
- 個別指導の的確さ
- TTとしての連携と専門的な説明
 - 「チーム」として互いを支え合って授業を進めることができていた。「朝日を浴びる」という資料は専門性が表れていた。「リラックスするためにガムを噛む」という児童にも養護教諭が適切にアドバイスをしていた。
- 具体的なめあてを立てさせるためには原因の追究が大事。